

公表	児童発達支援事業所における自己評価結果
----	---------------------

事業所名	運動療育はいたっち阿倍野教室				公表日	R8年 3月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		同学年くらいのお子様と一緒に活動したり、場合によっては外の活動も行っている。	安全面を考慮してスペースを出来る範囲で確保したり、運動内容を考えていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		視覚的に分かりやすく「工事中」のカードを張る等して入ってはいけない場所も分けることができている。 絵カードなど視覚支援の作成。	必要に応じてその都度作成していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	完全な個室やセーフゾーンの確保が難しい。パーテーションや絵カードを使用して個別の場所がわかるようにしている。	必要に応じて職員のスペースを使用したりしています。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	管理者が決めたことをやる、報告だけをさくなど、時期ごとの振り返りが少ない。	時間を確保し、職員での振り返りなどを今後行えるようにします。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		終礼で共有したり、空き時間に勉強会や検討会を開いている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	他事業者による評価がない。	今後、検討が必要。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		PTによる研修がある。 1人ひとりが受講したい研修を伝える姿勢があるとさらに良くなると思う。	外部研修などをまとめたり、周知できるようにしていきます。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援計画を元にメニュー構成したり、その都度依頼された内容も反映している。	子どもたちが考えてくれた運動も随時追加しています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		支援計画を元にメニュー構成したり、その都度依頼された内容も反映している。 PTによる標準化アセスメントツールを利用している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	多角的な視点による意見交換が少ない。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		メニュー構成時に確認している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		PTによるモニタリング前後にもチェックをおこなっている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		今まで行ってきた運動を元に、経験したことのない運動も入れながら行っている。 アセスメントにより意味のない内容の廃止、保育士による新しい内容の提案があるため。 さまざまな経験ができるように固定化せず柔軟に行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		個人の課題も入れながら、集団でも出来る運動を行っている。 各個人の課題に合わせた設定で個別や集団での活動も出来る様に行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		年齢の近い子どもと一緒にする場合、子どもの支援内容を共有しながら運動も行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		記録なども行い、管理している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		保育士による記録の研修により、抽象的な記録の防止、利用者の反応や療育の意図が書けているなど。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		担当者会議で他施設が行っていることで共有できるところは行うようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	必要に応じて連絡をしている。 相談支援員に連絡したり、つないだりも必要に応じて行っている。	今後も相談支援員や学校と連携がとれるように働きかけていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) ..... 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) ..... 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		6		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		直接的な関わりは持っていないため、今後検討は必要。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		子どもの少しの成長でも伝えるようにしたり、保護者の思いもききながら支援に繋げている。 見学席があるため、支援者もそれを利用している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4		以前は土曜日に研修を行っていましたが、集客が難しいところもあり現在は中止しています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		関わり方のポイントなどを伝えている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者からの相談などがあれば担当の指導員だけでなく、自発言とも話をしてもらいながら支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4	保護者同士の交流の場は設けていないが、見学ができるため同じ時間の保護者同士が話していることもある。	組み合わせも考え、同じ時間帯の保護者様が交流がもてるようにもしていきたいと思います。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談があった場合はその日に職員に共有し、話し合いが出来る。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		療育の組み合わせを考え、保護者同士が繋がるようにしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		ブログを通して、どのような運動をしているかを発信している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		ブログを定期的に更新している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		地域運営は現在行っていないため、検討が必要。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	ヒヤリハットの件数が少なく、月1回もない。	少しでも危険を感じた場合は、作成し今後の対策を考えるようにしていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				